

小督の局こくろう つぼね  
(松口月城まつぐちげつじょう)

月は清しつき きよ  
嵯峨野の辺さかのの ほとり

聴き得たりき え  
琴の音の戸を隔ててこと ね と へだ  
伝うるをつと

無限の哀愁むげん あいしゅう  
無限の思むげん おも

悲歌ひか  
一曲人をしていっきよく ひと  
憐ましむあわれ

月清嵯峨野之邊 聽得琴音隔戸傳  
無限哀愁無限想 悲歌一曲使人憐

解説 平安時代、平清盛全盛時代の宮中一の美人  
小督局が宮中を去り、高倉天皇の要請で藤原仲國が  
嵯峨野の山中で探し出す。

語釈 ※小督局Ⅱ桜町中納言成範の女。高倉天皇の  
時、宮中一の美人と称された。高倉天皇は小督を愛  
したが、平清盛の娘が宮中に上がり、孫を得ようと  
する清盛にうとまれ、宮中を去って嵯峨野に隠れ住  
んだ。※嵯峨野Ⅱ京都市嵐山の渡月橋あたり。

※悲歌Ⅱ悲しい曲。ここでは「想夫恋」

通釈 月の光も清らかな嵯峨野のあたりに来て見る  
と、漸くにして伝わり来る琴の音に誘われて、仲國  
は小督の侘び住まいを尋ね当てることができた。限りな  
い悲しみ、限らない想いに耐えない。「想夫恋」の曲を  
聴く人に、憐れみの情を起こさせずにはおかない。